

塩尻市都市計画マスタープラン

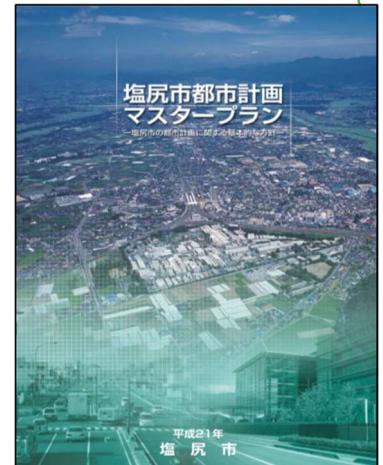
塩尻市では令和6年度中の公表を目指して
「塩尻市都市計画マスタープラン」の見直しを進めています

全体構想の概要

1

「都市計画」と「都市計画マスタープラン」とは

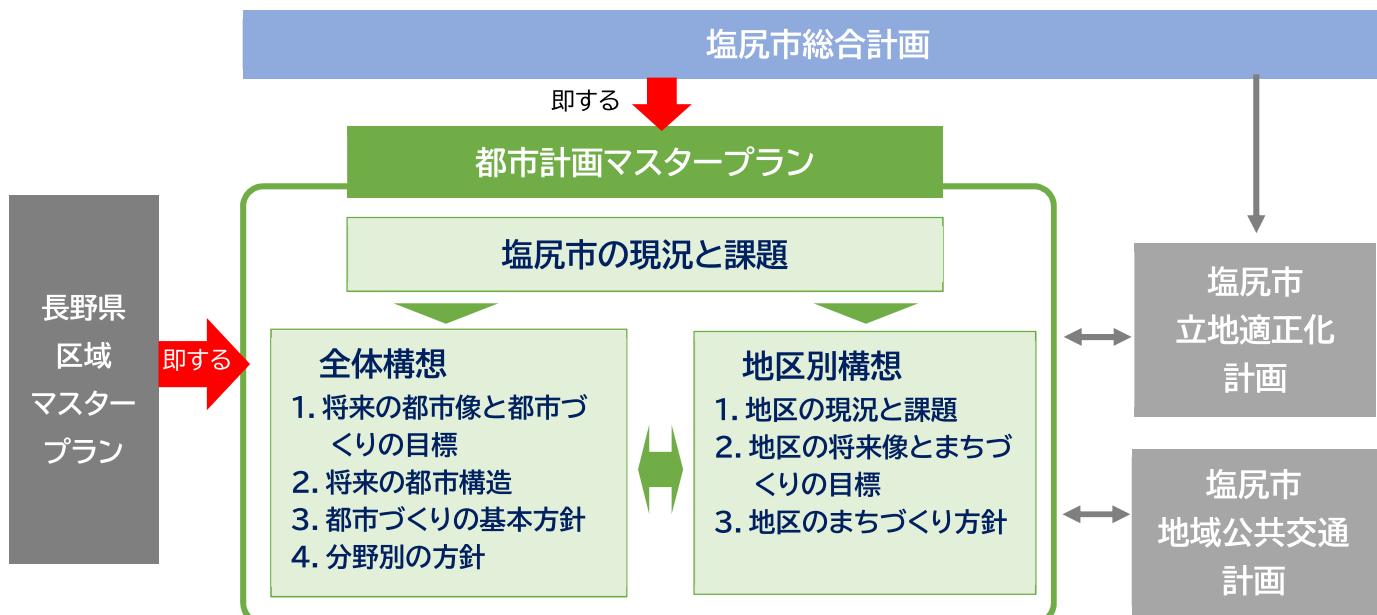
- 「都市計画」とは
→ 土地の使い方のルール、道路や公園等の配置、計画的な市街地整備事業を定めるものです
- 「都市計画マスタープラン」とは
→ 市町村が、市民の意見を反映して、将来のまちのあるべき姿やまちづくりの基本的方向性をわかりやすく示すもの
→ おおむね 20 年後の都市の姿を展望し、個別の施策内容はおおむね 10 年後を目標として定めます



2

「都市計画マスタープラン」の構成

- 都市全体を対象とする「**全体構想**」、市内 10 地区毎に定める「**地区別構想**」によって構成され、塩尻市総合計画等に即して、市の都市計画の基本方針を定めます



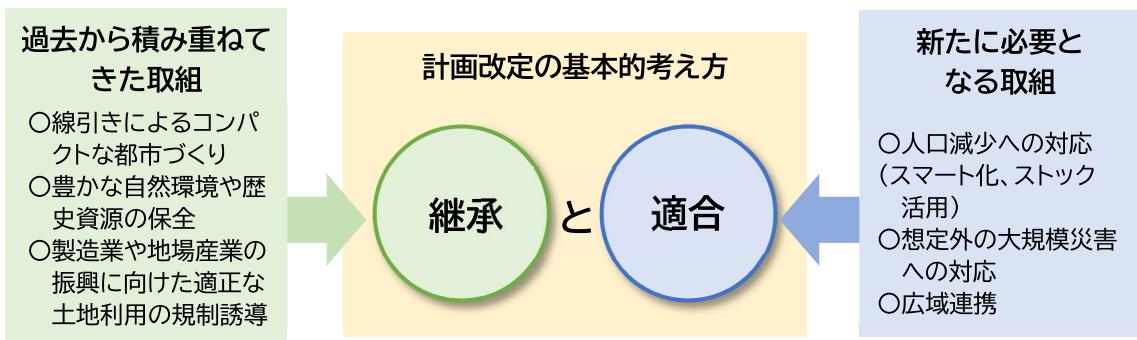
塩尻市都市計画マスタープラン

全体構想の概要

3

今回の改定の視点

- 過去から積み上げてきた取り組みを**継承**しつつ、新たな時代に求められる都市像へと**適合**させることを基本に計画を改定します



4

タウンミーティングで確認したい事項

- 今回のタウンミーティングでは、地域の特性を踏まえたまちづくりの目標や方針を定める「地区別構想」の策定にあたって、地域の皆さんとの声を広く聞くものです
- 地区別構想では、最終的には地区が有する強み・弱みを整理した上で地区の抱える課題を抽出し、その課題を踏まえた地区の目標やまちづくりの方針を定めたいと考えています
- 数値的な事実等から、市で地区毎の強み・弱み、地区の目標等を暫定的に設定しますので、そこに対して皆さんを感じていることを述べていただき、案を練磨したいと考えています

1

地区の歴史と成り立ち



- 江戸時代に牛首峠越えの中山道が塩尻峠越えに変更になった際、塩尻宿とともに本山宿・洗馬宿が設定
- 江戸時代に「本朝文選(風俗文選)」にそば切りは本山宿からと記述
- 明治後期から大正にかけてブドウ栽培と併せてワイン醸造が行われるようになり、その後ブドウ酒工場の誘致によって本格的なブドウ酒製造が発展
- 明治42年にJR中央西線の塩尻駅から奈良井駅間が開通した際に洗馬駅が開設、大正15年には旧日出塩信号所が日出塩駅に昇格(昭和59年から無人駅)

- 昭和42年の洗馬牧野バイパスの開通、昭和48年の本山バイパスの開通により、東側の山麓傾斜地の宅地化が進んだほか、国道19号沿いに大型事業所が進出
- 昭和中期、人々の好みが人工甘味ワインから本格ワインへ移り変わり、それまで主流であったコンコードからメルローへの栽培に転換
- 桔梗ヶ原ワインバーとして、「塩尻ワイナリーフェスタ」の開催やワイナリー循環バス運行などの試みが行われる

2

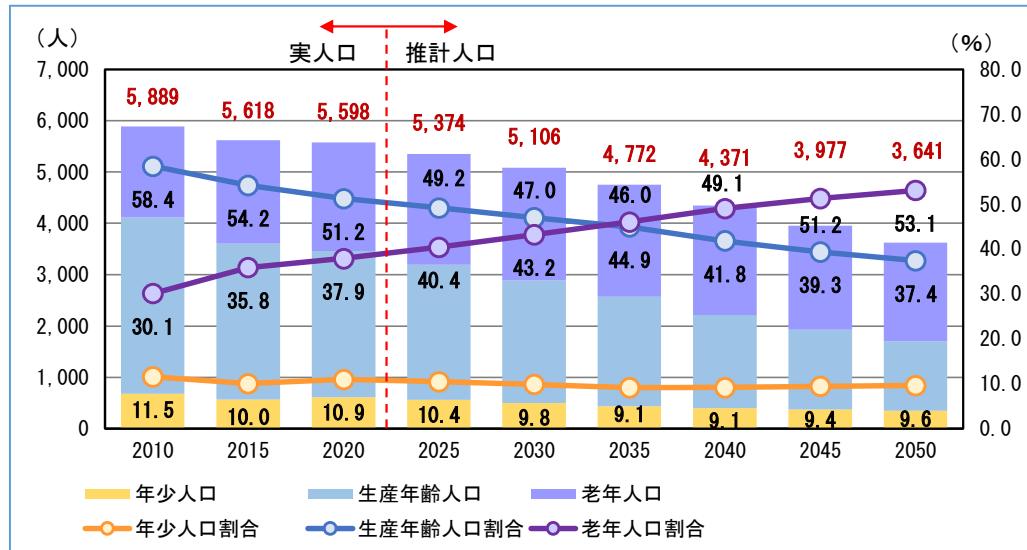
地区の概要



- 地区面積約3,872ha
- 地区の約65%が都市計画区域、約2%が市街化区域

- 地区人口は5,598人(R2年)、過去10年間で291人の減少
- 高齢化率(65歳以上人口割合)は市平均を上回る37.9%

●人口の推移



宗賀地区

地区別構想の骨子

3

地区の課題とまちづくりの目標



地区の強み



一部地域が中心市街地に近接し、暮らしやすい良好な居住環境

平出遺跡や桔梗ヶ原のワイナリーなど地区内各地に分布する地域資源

ブドウ果樹園から構成される特徴的な田園景観

中山道の街並みの面影を残す塩尻宿

地区の弱み



鉄道の運行本数の少なさと駅舎の老朽化・バリアフリー未対応

遊休農地、荒廃農地の増加

一部集落が国道19号に依存し、孤立化の危険性の高い道路ネットワーク

集落内に分布する土砂災害のハザードエリア

「強み」
を生かす

「弱み」
を克服する

地区の課題

鉄道駅の利便性向上と地区内の公共交通の維持が必要

地区内の様々な歴史資源を活用した観光活性化が必要

国道19号の機能強化と併せて県道の通行円滑化が必要

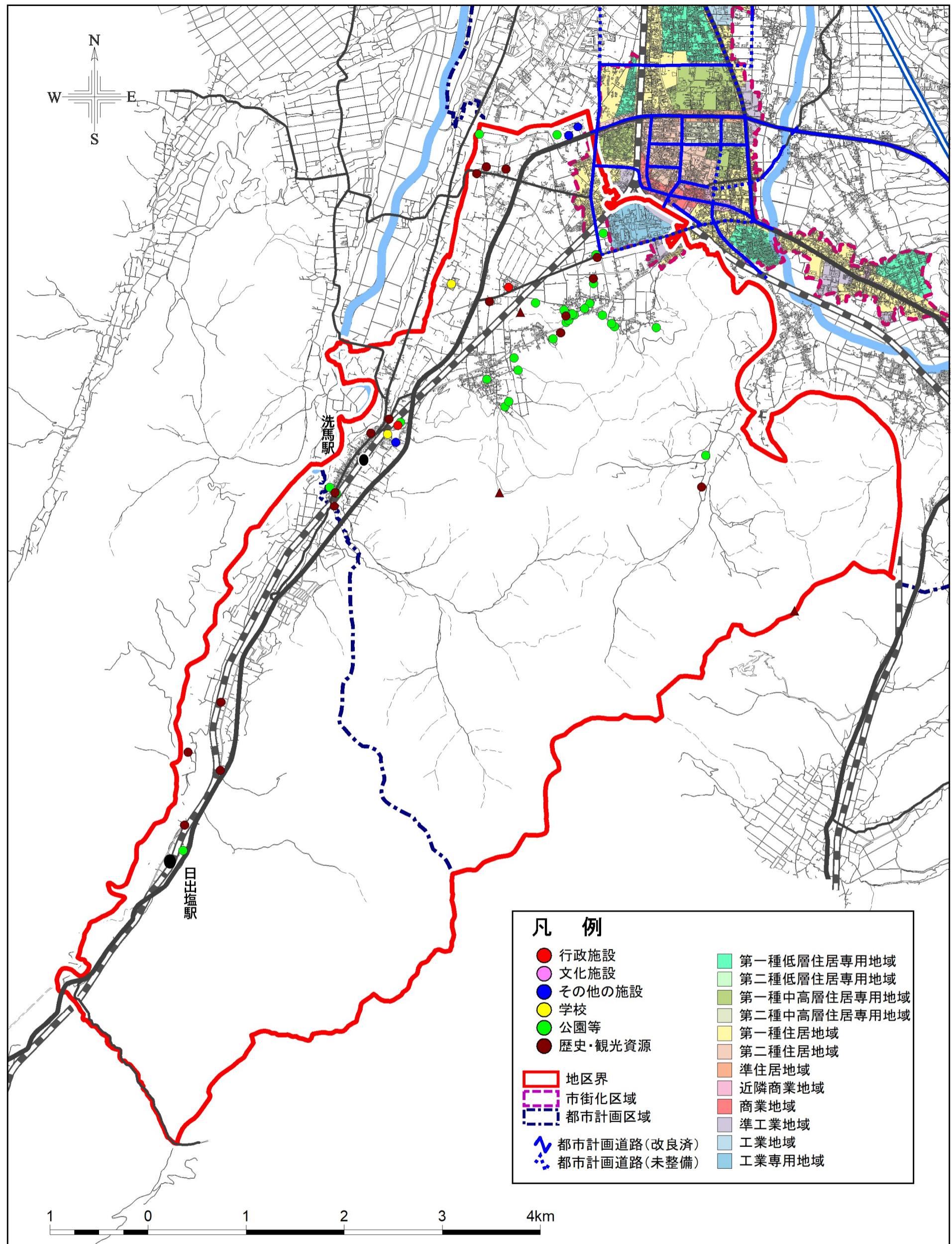
まちづくりの目標

様々な地域資源を生かして市外から人を呼び込むまちづくりを進める

桔梗ヶ原の果樹園が広がる田園景観を守り続けるまちづくりを進める

農村集落の活力維持のために地場産業を生かしたまちづくりを進める

●地区の主な施設・資源の分布



●地区の災害ハザード

